

母に贈る歌に寄せて

私の母は、昔から子どもの教育に熱心な、いわゆる「教育ママ」でした。その母は、現在、福祉施設の病床に在りながらも、なお私を「教育」し続けてくれています。

ただ歌うことに夢中になり世間を知らない私に何かを教えようと、彼女はその身を賭して「福祉」の世界に私を導いたのではないかと思うことさえあります。

子どもの頃、私は「ナイチンゲール」を泣きながら読んだ記憶がありますが、福祉施設で出会ったケア・スタッフや看護師の皆さんは、その過酷ともいえる仕事を、強いポリシーを持って敢えて選択された方々です。

また、そこに暮らす入所者の人々の魂は美しく、人間が本来持つ「優しさ」や「温かさ」を、日々思い出させてくれます。

私の母は、まさに生きながらにして、邪気や煩惱から解き放たれた純粋な魂の境地に到達した人です。私が本当に良い歌をうたいたいと思うならば、そんな境地を求め続ける努力をしなければいけないと、母と向き合うたびに、痛感せずにはいられなくなります。

私は昔から、職業や年齢や世代に関係なく、ただその時、その瞬間のフィーリングだけで友情を結ぶことが大好きでした。

今でも、偶然の出会いから友だちになった人々が何人もいます。その「友だち」を通じて今まで知らなかった世界を知ることができると、人生はワクワクしたものになります。余計な衣を脱ぎ捨て、ただ心と心が触れ合う心地よさこそが人生の醍醐味だと思います。

今日も様々な職業や年齢や世代の「友だち」がこのジョイントコンサートにお越しくださっています。

「音楽」は人を選ばず、誰にでも平等で、誰にでも微笑み、そして生きる勇気を与えてくれます。「音楽」は皆様一人ひとりのものだと思うのです。

本日の「オープン・マインド」の空間が、いったい何色に染まるのか、皆様とともに楽しみにしております。

平成25年11月23日

出口正子